OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	日本近代デザイン史ノート : 明治以降戦前までのデザイン・インテリア・デザイン教育関係文献
Author(s)	緒方, 康二
Citation	デザイン理論. 1988, 27, p. 111-132
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52662
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

日本近代デザイン史ノート

—明治以降戦前までのデザイン・インテリア・デザイン教育関係文献—

緒方康二

1．はじめに

イギリスのDisign Councilは1979年、1851年から1970年にかけてのデザイン関係文献書誌を刊行した（Anthony J. Coulson *A Bibliography of Design in Britain* London : Design Council Publications, 1979）。ここでは，1836年を起点としたイギリス近代デザイン史の簡単な年表とともに、〈デザイン奨励策〉，〈デザインおよびデザイナー〉，〈デザイン活動の諸分野〉，〈雑誌〉のテーマ別に，290ページにわたりデザイン関連文献があげられている。デザイン史研究者必携の書誌であろう。

一方，日本近代デザイン史研究はいまだ黎明期にあるといってよく，デザイン関係文献書誌の存在も寡聞にして知らない[1)]。本稿においては，こうした状況をふまえ，明治以降今時大戦終了（1945〈昭和20〉年）までの期間で管見の範囲で知りえた、技法書を中心とするデザイン関係の文献を紹介する。いうまでもなく文献書誌としての充実を計るためには，単行本，叢書，全集のほか各種図版類，関連雑誌はもとより，デザイン教育・行政，産業振興，美術の諸分野にわたる文献を網羅する必要がある。以下に今回取り上げなかった図版，雑誌類について簡単に触れておく。

デザイン関係の図版については江戸以来，各種装飾模様のパターンブックの伝統があり，明治40年以降これに各種図案集あるいはレタリング参考図集が加わってかなりの数にのぼる。いまだ未整理である。

デザインの専門雑誌は明治34年の大日本図案協会の機関誌『図按』（創刊明治34年12月，終刊36号明治39年２月）がそのはじまりであろう。西欧のデザイン概念の導入をもって日本の産業振興の一助とする考えは，明治10年頃からスタートしていたが，当初デザイン啓蒙に指導的役割をはたしたのは，日本伝統美術工芸振興団体であった竜池会（後の日本美術協会）の機関誌『竜池会報告』（創刊明治16年10月，32号明治21年１月より『日本美術協会報告』に改称）であり，あるいは輸出関連単一産業内の専門誌などの雑誌類であった。例えば大日本織物協会機関誌『大日本織物協会報告』（創刊明治19年３月），大日本窯業会機関誌『大日本窯業会雑誌』（創刊明治25年９月）である。これらの雑誌は明治40年頃まで，デザイン関連記事・参考図版を掲載，図案作品の懸賞募集など，積極的なデザイン啓蒙運動を展開した。ただ後出の文献一覧にみるように，明治40年代にいたってデザインの専門書が登場するにつれ，上記諸雑誌のデザインに対する啓蒙的役割はうすれ，専門分野の技術雑誌的性格を強めてゆく。明治40年をひと区切りとしてデザインが一般に周知されはじめる背後には，明治30年を前後して相次いで文部省直轄のデザイン教育機関が設置され，組織的教育を通じたデザインの専門家が誕生しはじめたこと，また普通教育の中にデザイン（図案）教育が取り入れられはじめたことの影響による。

一方『図按』の発刊は，他のデザイン団体にも影響をもたらし，デザイン専門雑誌の発刊をうながした。京都図案会の機関誌『京都図案』（創刊明治39年４月？，終刊不明）はその例であり，また京都市立美術工芸学校（現京都市立芸術大学）校友会が刊行した『美術及美術工芸』（創刊明治35年３月，終刊不明）もデザイン情報誌的性格がみられる。

デザイン専門雑誌はその後，『技芸の友』（創刊明治38年10月，終刊50号明治

42年11月）が発刊され，『図按』のあとをうめるかたちとなったが，終刊に近づくにつれ，デザインカラーが弱くなっている。

大正に入り，雑誌『現代の図案』（創刊大正３年２月，41号大正６年10月『現代之図案工芸』，113号大正13年１月『図案と工芸』にそれぞれ改題，終刊121号大正13年10月）が登場，大正期を通じ，ながくデザイン専門誌としての役割をになった。

昭和では雑誌『帝国工芸』（創刊昭和２年７月，終刊12巻９号昭和13年９月）がある。ただ他のデザイン専門誌とことなり，終刊はたちぎえのかたちではなく，（時局がら）国家的立場から工芸を見直さなければならない事に立ち到った」との休刊宣言（12巻９号）で終わる。この『帝国工芸』とは一時期並存した産業工芸試験所の『工芸ニュース』（創刊昭和７年６月，休刊12刊10号昭和18年12月）も，戦後の復刊とともに重要な足跡を残した昭和のデザイン誌であろう。

さて本稿で取り上げるデザイン関係の文献は，デザイン一般，インテリア（店舗関係を含む），教育の３領域を対象とし，文献のあたまに括弧書きでそれぞれ（図），（イ），（教）と区別した。戦前のデザイン界は現在のように専門領域が細分化されておらず，多くのデザイン領域が「図案」に対応して存在した。デザイン一般に（図）をあてたのは，そのためである。ただインテリア関係（戦前は「室内装飾」と呼ばれることが多かった）は，かかわりの深い建築が早くから専門分化していた影響からか，専門書の登場も早い。このためデザイン一般とは別に，インテリアの項目（イ）をもうけた。また日本は大正８年頃から都市化が進み，商業活動も活発化する。これを受けてデザインの分野にも「商業美術」という概念が登場し，特に浜田増治らによる「日本商業美術家協会」結成（大正15年）以後，この分野でのデザイン活動が活発となった。販売促進のための店舗装飾やウインドディスプレイがデザインの専門分野に登場するのも，この頃である。

各文献の領域を定めるにあたって，叢書，全集については，構成文献の全体的傾向をもってその領域とした。従って『現代商業美術全集』などでは，現在ではインテリアにまとめられることの多い店舗，ウインドディスプレイ関連文献なども，（図）に区分されている。例は少ないが，単行本で店舗装飾に関連したものは，インテリアに組み入れた。

明治40年を前後して，普通教育における図案教育の必要性がたかまり，図画教育指導書の中にも「図案」に関する項目が登場しはじめる。「図案」の項がしめる分量はそれぞれの文献によって異なるが，普通教育への「図案」の導入は，デザインが限られた分野や産業人をこえて，広く一般に普及する契機となっているので，（教）の領域をおいて教育関連のデザイン文献も取り上げた。

なお文献についての記述項目中，末尾のcmで示した寸法は，本の長辺である高さを表し，端数は切り上げてある。変形の図書については，タテ×ヨコの寸法を示し，0.5cm単位で端数を切り上げた。特記すべき事項は，＊印とともに記述した。

2．明治以降戦前までのデザイン・インテリア・デザイン教育関係文献

（イ）　山田美妙斎『日本室内粧飾法』（『女学全書』第5編），明治26，博文館，150p.，23cm

＊　タイトルでは室内装飾指導書にみえるが，内容の多くは「生け花」と「飾り棚」の解説・図版よりなる。ただ文頭の総論で，造形の基本要素である色と形が「配合の二要素」として取り上げられており，〈色の意味〉，〈形の配合〉として31ページにわたり造形理論が展開されている。家具のデザインにまでいたらない，明治初期のインテリアデザイン論で，日本住宅の座敷や飾り棚を中心とした伝統的室内装飾法を説くパターンは，のちの杉本文太郎の一連の著作にも現れる。言文一致の文体で有名

な小説家が著したインテリアデザイン書としても，特異なものであろう。

(図)　大日本図案協会編『おだまき』，明治40，大日本図案協会，解説１葉／図８葉　折本仕立て，31cm

(図)　小室信蔵　『図案法講義』[2)]，明治40，元元堂書房，170p.，22cm

(図)　小室信蔵　『一般図按法』，明治42，丸善株式会社，390p.／付録10p.　23cm

(イ)　井上繁次郎　『家具図説』，明治42，博文館，108p.，21cm

＊　指物について，材料・加工・製法を，図入りで解説したもの。

(図)　森田　洪　『装飾図案法』，明治43，建築書院，338p.，23cm

(イ)　近藤正一　『室内装飾法』（『家庭百科全書』第26編）明治43，博文館，270p.，23cm

＊　座敷の装飾や器具・調度の配置について，伝統的手法を述べるにとどまらず，洋風食堂や書斎の装飾にまで踏み込んで述べられている点に目新しさがある。

(イ)　杉本文太郎　『日本住宅　室内装飾法』，明治43，建築書院，93Ｐ／図版50，23cm

(教)　藤　五代策編　『図画新教授法』（Ｐ．129－165「図案の意義及取扱ひ方」を含む），明治43，目黒書店，218Ｐ．，23cm

(図)　島田佳矣　『工芸図案法講義』，明治44，興文社，248Ｐ．／図版42，23cm

(図)　原　貫之助　『新編図案法』，明治44，成美堂書店，266Ｐ．，23cm

(イ)　小室信蔵・宮本忠平　『日本家具図案と製作法』，明治44，110Ｐ．，22×31cm

(イ)　杉本文太郎　『日本各時代　室内装飾法』，明治44，232Ｐ．，23cm

(教)　白浜　徴　『図画教授之理論及実際』（Ｐ．258－301「考案上の形状」を含む），明治44，604Ｐ．／図版26，23cm

(教)　阿部七五三吉　『実験図画教授法』（p．345－362「図案法」を含む），明治44，734p．，23cm

(イ)　杉本文太郎　『日本住宅　室内飾り道具図解』，明治45，建築書院，93p．，22cm

(イ)　杉本文太郎　『図解　日本座敷の飾り方』，明治45，建築書院，180p．，22cm

(イ)　木村貞吉　『西洋家具集』，明治45，木葉会，図50葉　リーフレット形式，27cm

(教)　藤　五代策編　『普通教育　図案新資料』，明治45，目黒書店，171p．，23cm

(図)　T.E.ハリソン・W.G.P.タウンゼント，小室信蔵訳　『稿本　図案用語解説』，大正元，図案研究会，107p．，23cm，（原本　G.E. Harison, W.G. Paulson Tounsend *Some Terms commonly used in Ornamental Design* London,1906）

(教)　佐藤平太郎　『図案及作画新教授法』，大正元，広文堂書店，434p．，23cm

(図)　安田祿造　『新式日本図案の応用』，大正元，堂文館，280p．／付録20p．，24cm

(教)　小泉吉兵衛　『和洋家具製作法並図案』，大正2，須原屋書店，p．356，19×26.5cm

(図)　デンマン W．ロス，小室信蔵訳　『稿本　図案学精義』大正3，図案研究会，125p．／図版45p．，23cm（原本 Denman W. Ross *A Theory of Pure Design* Boston and New York, 1907）

(イ)　木檜恕一[3]『雑木応用　最新家具製作法』上，大正3，博文館，368p．，26cm

(教)　山村誠一郎　『教育図案集誌』，大正3，積善館本部，110p．／図版

12, 27cm

(イ)　木檜恕一　『室内装飾家具製作図』第1輯，大正4，大日本工業会，103P.，23cm

(イ)　木檜恕一　『室内装飾家具製作図』第2輯，大正4，大日本工業会，105P.，23cm

(イ)　木檜恕一　『雑木応用最新家具製作法』下，大正5，博文館，496P.，26cm

(イ)　杉本文太郎　『日本住宅の保全と諸什器取扱ひ法』，大正5，建築書院，226P.，23cm

(教)　白浜　徴　『文部省講習会　図画科講話集』（P. 160—198，島田佳矣　「工芸図案に就きて」を含む），大正6，大日本図書株式会社，230P.，22cm

(図)　藤村彦四郎　『実用的応用　図案法講話』，大正7，大川教育社，285P.，24cm

(図)　C. ブラグドン，小室信蔵訳　『形象芸術之要諦』，大正8，丸善株式会社，162P.，23cm，(Claude Bragdon *The Beautiful Necessity* New York, 1910)

(図)　小室信蔵　『図按の意匠資料』，大正10，丸善株式会社，407P.，23cm

(教)　阿部七五三吉　『教授資料　図案集成』平面之部，大正10，培風館，148P.，22cm

(図)　『意匠図案講習録』，大正11，大日本工芸会，「意匠図案法講義」367P.「応用図案法講義」169P.「色彩学講義」75P.，22cm

(イ)　木檜恕一　『家具の設計及製作』（『木材工芸叢書』第2冊），大正11，博文館，384P.，23cm

(イ)　岡田三郎助　『工芸美術及室内装飾』（『書画骨董叢書』第10巻），大

正11，博文館，330ｐ．，23cm

(イ)　坪井八重　『住宅家具の改善』，大正13，財団法人生活改善同盟，201ｐ．，23cm

(教)　岡田三郎助・丹羽禮介　『教育図按画集と其の描き方』，大正13，中文館，224ｐ．，23cm

(図)　万　富三　『図案構成と其応用』，大正14，宝文館，400ｐ．，23cm

(図)　倉本長治　『広告図案の描き方』(『広告事務叢書』第４編)，大正14，商店界社，140ｐ．，18cm

(イ)　植実宗三郎　『家具室内装飾図集』，大正14，建築文化社，44ｐ．／写真図88，16×23cm

(イ)　保岡勝也　『小住宅の洋風装飾』，大正14，鈴木書店，54ｐ．／図版63，23cm

(イ)　永原與蔵　『家具図案と構造図解』，大正14，鈴木書店，図版50，23cm

(イ)　永原與蔵　『新しき家具設計図案』，大正14，鈴木書店，18ｐ．／図版52，19×26.5cm

(イ)　『文化住宅の家具』(『建築写真類聚』第４期第６回)，大正14，洪洋社，50ｐ．，20×13cm

居間用家具コンペ当選案作品集

(教)　向井寛三郎　『図画科の知識』(ｐ．160—321「考案画」を含む)，大正14，積善館，321ｐ．，19cm

(イ)　森谷延雄　『これからの室内装飾』，昭２，太陽堂書店，718ｐ．，19cm

(教)　小堺宇市　『新式図案構成と其指導』，昭和２，大同館書店，582ｐ．，23cm

(図)　宮下孝雄　『装飾構成の研究』，昭和３，太陽堂，442ｐ．，23cm

(図)　田口鏡次郎編　『新美術講座　洋画科』第4巻（石井柏亭　「図案講義」140p．を含む），昭和3，中央美術社，全ページ数不明，22cm

(図)　北原義雄編　『現代商業美術全集』1―24，昭和3―5，アルス27cm

＊　並製と上製がある。図版ページは各巻とも，紙質，印刷形式に応じて独立したページ数が与えられているが，ここでは図版として一括しておく。

1　『世界各国ポスター集』，昭和2，図版100p．／本文44p．

2　『実用ポスター図案集』，昭和3，図版76p．／本文78p．

3　『世界模範ショーウインドー集』，昭和5，図版104p．／本文22p．

4　『各種ショーウインドー装置集』，昭和4，図版102p．／本文40p．

5　『各種ショーウインドー背景集』，昭和3，図版74p．／本文78p．

6　『世界各国看板集』，昭和5，図版90p．／本文46p．

7　『実用看板意匠集』，昭和3，図版90p．／本文46p．

8　『電気応用広告集』，昭和5，図版74p．／本文38p．

9　『店頭店内設備集』，昭和4，図版94p．／本文50p．

10　『売出し街頭広告集』，昭和3，図版94p．／本文40p．

11　『出品陳列装飾集』，昭和4，図版74p．／本文38p．

12　『包紙・容器意匠図案集』，昭和4，図版90p．／本文37p．

13　『新聞雑誌広告作例集』，昭和4，図版82p．／本文49p．

14　『写真及漫画応用広告集』，昭和3，図版98p．／本文58p．

15　『実用図案文字集』，昭和5，図版110p．／本文45p．

16　『実用カット図案集』，昭和4，図版106p．／本文29p．

17　『文字の配列文案集』，昭和5，図版66p．／項文54p．

18　『チラシ・レッテル図案集』，昭和３，図版100Ｐ．本文38Ｐ．

19　『新案商標･モノグラム集』，昭和４，図版72Ｐ．／本文42Ｐ．

20　『小印刷物及型物図案集』，昭和５，図版106Ｐ．／本文20Ｐ．

21　『カタログ・パンフレット表紙図案集』，昭和４，図版82Ｐ．／本文54Ｐ．

22　『日本趣味広告物集』，昭和５，図版82Ｐ．／本文39Ｐ．

23　『最新傾向広告集』，昭和５，図版90Ｐ．／本文29Ｐ．

24　『商業美術総論』，昭和５，解説８Ｐ．／図版26Ｐ．／本文92Ｐ．

＊　杉浦非水，宮下孝雄，仲田定之助，田村与一郎，渡辺素舟，浜田増治らが，編集の任にあたった。

（イ）　宮本忠平　『最新日本室内家具製作図集』，昭和３，日本工芸学会，図版287，21×23cm

（イ）　家庭生活改善協会　『実用台所設計図案』，昭和３，鈴木書店，52Ｐ．／図版49Ｐ．，23cm

（イ）　下沢瑞世　『広告・窓飾の新傾向』（『新商業叢書』第４編），昭和４，博文館，334Ｐ．，19cm

（イ）　木檜恕一　『現代日本の家具』，昭和４，洪洋社，322Ｐ．，23cm

（イ）　永原與蔵　『図案構造　和風家具』，昭和４，鈴木書店，図版56，22cm

（イ）　西川友孝　『庭園工芸と室内装飾』，昭和４，資文堂書店，340Ｐ．，20cm

＊　庭園が中心で室内装飾はＰ．269―340のみ。

（イ）　田中邦次郎　『新しき室内装飾と家具の見方』，昭和４，鈴木書店，397Ｐ．，20cm

（イ）　帝国工芸会　『クロモシリーズ　工芸常識講座』，昭和４，三省堂，

19cm

＊　クロモシリーズは全56冊よりなる。ただ工芸講座とはいえ，デザインに関連した内容を持つのは下記の３冊のほか，木檜恕一『近代生活の家具と装飾』，清水正巳『広告ビラと商店広告術』（いずれも未確認）であろう。また下記３冊中の鹿島英二分は，現在ならテキスタイルに区分されようが，シリーズとしてこの項にまとめた。

関　重広　『飾窓の照明法』，昭和４，54Ｐ．

内坂素夫　『電気サイン及看板照明』，昭和４，46Ｐ．

鹿島英二　『着物の流行と織物』，昭和４，47Ｐ．

（イ）　向井寛三郎　『図案への通路』，昭和５，創生社，308Ｐ．，20×16cm

（イ）　木檜恕一　『近代の事務家具』，昭和５，博文館，99Ｐ．／図版116，26×20cm

（イ）　佐藤巳之吉　『新しき建築の和洋家具設計図案と付属金具』，昭和５，中央工学会，25Ｐ．／図版57，22cm

（イ）　黒木高節　『新日本家具設計製作及室内装備品』，昭和５，中央工学会，158Ｐ．，21cm

（教）　万　富三　『図画の学習』（Ｐ．223－294「図案の学習」を含む），昭和５，大明堂書店，338Ｐ．，23cm

（図）　宮下孝雄　『新図案の基礎』，昭和６，太陽堂書店，363Ｐ．，23cm

（イ）　佐藤巳之吉・吉田正作　『近代家具設計図と其の製作法』，昭和６，中央工学会，図60葉　リーフレット形式，22cm

（教）　山形　寛　『器体の組成と装飾』，昭和６，南光社，249Ｐ．／図版70，23cm

＊　社団法人日本手工研究会主催の夏期講習会（昭和３年８月，於：東京高等師範学校）での「手工図案」講演草稿を発展させたもの。

（教）　浅野秀一　『最新図案指導の理論と其の実際』，昭和６，三成社，380

p., 23cm

(教)　横井曹一　『図案教育の新構成』，昭和６，東洋図書株式会社，

(図)　『新興工芸シリーズ』[4]，昭和７，金星堂，23cm

＊　西川友孝の企画による，全15冊の工芸シリーズ。実際には下記の５冊のみが刊行された。なお後出のように，シリーズ１の「工芸概論」は西川友孝の『工芸学概論』（昭和10）として，シリーズ５の「金属工芸」は松崎福三郎の『金属工芸』（昭和８）としてシリーズをはずれて刊行された。またこの『新興工芸シリーズ』の５冊は，これも後出のとおり昭和10年，学術出版社から『工芸叢書』として再版されている。ただ版組は同じ（従ってページ数も同一）ながら，判型は菊判からＢ６判へと小型化した。

2　横山薫次　『工芸意匠』，昭和７，214ｐ.

4　小栗吉隆　『木材工芸』，昭和７，200ｐ.

6　丸木憲萍　『陶磁工芸』，昭和７，174ｐ.

＊　陶磁器の技術書的性格が強く，デザインカラーはうすい。

12　伊藤義次　『室内装置』，昭和７，281ｐ.

15　好地　武　『工芸材料』，昭和７，210ｐ.

(図)　北原義雄編　『図案新技法講座』，昭和７―８，アトリエ社

＊　執筆陣は杉浦非水，宮下孝雄，浜田増治，渡辺素舟，畑　正吉，富本憲吉，木檜恕一，岩田藤七，高村豊周，広川松五郎，恩地孝四郎ら。

1　『基礎図案法』，昭和７，図版28ｐ.／本文172ｐ.

2　『創作図案法』，昭和７，図版.8ｐ.／本文135ｐ.

3　『平面図案法』，昭和７，図版28ｐ.／本文170ｐ.

4　『立体図案法』，昭和７，図版28ｐ.／本文129ｐ.

5　『装飾美術史』，昭和７，図版24ｐ.／本文170ｐ.

6　『解説東洋名作図案集』，昭和７，図版・解説とも40Ｐ．

7　『解説西洋名作図案集』，昭和８，図版・解説とも40Ｐ．

（図）　浜田増治　『商業美術精義』，昭和７，冨山房，392Ｐ．／付記９Ｐ．，19cm

（図）　杉浦非水・渡辺素舟　『図案の美学』，昭和７，福山書店，135Ｐ．，22cm

（図）　新井泉男・池辺義敦　『ポスターの理論と方法』，昭和７，アトリエ社，144Ｐ．，23cm

（イ）　木檜恕一　『作業要諦』，昭和７，三省堂，307Ｐ．，23cm

（イ）　佐藤巳之吉　『新様式のパイプ製家具と其室内写真集』，昭和７，中央工学会，図版50Ｐ．，21.5×16cm

（教）　藤岡亀市　『児童の図案』（付一般図案法），昭和７，三成社，224Ｐ．，20cm

（図）　松崎福三郎　『金属工芸』，昭和８，構成社書房，234Ｐ．，23cm

＊　『新興工芸シリーズ』の５で企画されたが，シリーズ中断のため別途刊行されたもの。金属加工の技術書的性格が強い。

（イ）　北尾春道　『床の間の構成』装飾編，昭和８，洪洋社，280Ｐ．，23cm

（イ）　黒木高節　『和洋家具材料』，昭和８，中央工学会，109Ｐ．，23cm

（図）　西川友武編　『最新工芸大観』，昭和９，吉田書店出版部，472Ｐ．，23cm

（図）　横山薫次・好地　武　『美術工芸意匠材料研究』，昭和９，功人社，424Ｐ．，23cm

（図）　東京洋画研究会編　『新しき図案の描き方』　昭和９，大伸書店，92Ｐ．／図版140Ｐ．，19cm

（図）　国府田範造　『応用自在　図案の描き方』，昭和９，崇文堂，27Ｐ．／図版88，19cm

(図)　川善多練七郎・武井勝雄　『構成教育大系』，昭和９，学校美術協会出版部，518Ｐ．，22cm

＊　バウハウス・システムによる造形教育（「構成教育」と呼ばれた）の指導書。

(図)　佐武林蔵　『図案の研究』，昭和９，成光館出版部，418Ｐ．，23cm

(図)　金子清次　『基本図案学』，昭和９，共立社，172Ｐ．，23cm

(図)　新井参男・池辺義純　『ポスターの科学的研究』，昭和９，ナウカ社，205Ｐ．，23cm

(イ)　平岩敏二　『商店デパート　陳列家具設計図集』，昭和９，洪洋社，図90葉　リーフレット形式／解説28Ｐ．，27cm

(イ)　伊藤義次・小栗吉隆　『新しい室内装置と家具』，昭和９，482Ｐ．，22cm

(図)　西川友武　『工芸学概論』，昭和10，工業図書株式会社，220Ｐ．，22cm

＊　『新興工芸シリーズ』１で企画されたが，企画中断のため後に出版されたもの。

(図)　『工芸叢書』，昭和10，学術出版社，19cm

＊　既版の『新興工芸シリーズ』を再版したもの。『陶磁工芸』が再版されているかどうかは不明。

横山薫次　『工芸意匠編』，昭和10，214Ｐ．

小栗吉隆　『木材工芸編』，昭和10，200Ｐ．

伊藤義次　『室内装置編』，昭和10，281Ｐ．

好地　武　『工芸材料編』，昭和10，210Ｐ．

(図)　鈴木美和治　『商業美術指針』，昭和10，聚文社，230Ｐ．，20cm

(イ)　加納四十二　『最新家具の実用工作法』，昭和10，太陽堂書店，367Ｐ．，21cm

(イ)　田中邦次郎　『洋室　家具装飾の知識』，昭和10，鈴木書店，117ｐ．，19cm

(イ)　伊藤義次　『素晴らしい趣味の室内装飾』，昭和10，教育図書出版社，281ｐ．，23cm

(イ)　西川友武　『軽金属家具』，昭和10，工業図書株式会社，206ｐ．，22×19.5cm

(図)　向井寛三郎　『現代図案教範』１―４，昭和11，英進社，23cm

1　『一般図案』，昭和11，106ｐ．／付録10ｐ．

2　『平面図案』，昭和11，98ｐ．／付録７ｐ．

3　「立体図案」，昭和11，96ｐ．／付録24ｐ．

4　『商業図案』，昭和11，112ｐ．／付録10ｐ．

(図)　上野正之助　『最新図案技法』，昭和11，綜合美術研究所，215ｐ．，20ｐ．

(図)　武井勝雄・中谷健次・岩崎喜久雄　『図案指導大系』，昭和11，学校美術協会出版部，705ｐ．，23cm

(図)　西川友武　『工芸美術』，昭和11，巧人社，422ｐ．，23cm

(図)　杉田精二（禾堂）編　『意匠資料の研究』線之部（『産業奨励誌』７）昭和11，大阪府工業奨励館，32ｐ．，25cm

＊　表紙裏の記述によれば，『産業奨励誌』１―６の表題はそれぞれ次の通り。1　『把手に関する考察』，2　『工芸講演集』，3　『喫煙具に関する考察』，4　『輸出工芸品種』，5　『世界各国人の趣味性』，6　『スプレー変塗法の研究』。いずれも未確認。

(イ)『木材工芸叢書』１―40，昭和11―12，洪洋社，20cm

＊　『木材工芸叢書』40巻中，インテリアデザインに関連が深いのは19巻まで。うち下記の７冊のみ確認できた。20巻以降は木工技術が中心で，ほかに照明，壁紙，カーテン・カーペットが取り上げられてい

る。なお19巻までで下記7冊以外の表題は次の通り。1　『書斎家具』，3　『応接家具』，5　『食事室家具』，6　『子供室家具』，8　『台所家具』，9　『屋外家具』，10　『事務家具』，12　『曲木家具』，13　『藤竹家具』，14　『箪笥と鏡台』，17　『家具と様式』，19　『家具図案』

1　木檜恕一　『住宅室内計画』，昭和11，90ｐ．

4　岩瀬要三　『居間家具』，昭和11，66ｐ．

7　佐々木達三　『寝室家具』，昭和11，82ｐ．

11　西川友武　『金属家具』，昭和11，82ｐ．

15　小栗吉隆　『茶棚と飾棚』，昭和12，64ｐ．

16　遠藤　武　『座机と書棚』，昭和11，79ｐ．

18　鈴木三郎　『家具製図』，昭和11，86ｐ．

（イ）　豊口克平・西川友武　『現代家具製作の知識』，昭和11，東学社，260ｐ．，26cm

＊　第1章　標準家具　目的と規範（ｐ．2）において，社会的妥当性を持つべき条件として次の5項目があげられている。1．機能．2．材料，3．構造，4．形態，5．経済性。いずれもモダンデザイン成立の必須条件であることは注目される。

（イ）　小泉吉兵衛　『和家具の製作と飾り方』，昭和11，東学社，319ｐ．，23cm

（教）　矢崎好幸　『最新図案教程』，昭和11，綜合美術研究所出版部，280ｐ．，20cm

（図）　浜田増治　『商業美術講座』1―6，昭和12―13，アトリエ社，23cm

＊　ブックケース裏の記述によれば，第6巻は『概観編』となっているが，確認できたのは下記5冊のみ。

第1巻　『入門編』，昭和12，119ｐ．

第２巻　『基礎編』，昭和12，図版10Ｐ．／本文121Ｐ．

第３巻　『平面編』，昭和12，119Ｐ．

第４巻　『立体編』，昭和12，図版82Ｐ．／本文73..

第５巻　『常識編』，昭和13，図版24Ｐ．／本文134Ｐ．

(図)　金子清次　『初級図案法』，昭和12，工業図書株式会社，236Ｐ．，22cm

(図)　向井寛三郎　『図案学』，昭和12，工業図書株式会社，338Ｐ．，22cm

(図)　工業教育振興会　『新編図案学』，昭和12，工業教育振興会，211Ｐ．，22cm

(図)　東京洋画研究会編　『新しき図案の描き方』，昭和12，富文館，92Ｐ．／図版112Ｐ．

＊　昭和９年，同一表題で大伸書店から出版されていたものの再版。ただし図版が８ページ分のみ削られている。

(イ)　遠藤　武　『室内家具装飾法』，昭和12，工業図書株式会社，183Ｐ．，22cm

(図)　宮下孝雄　『家庭工芸図案の指導』，昭和14，太陽堂，99Ｐ．，22cm

(教)　美育振興会　『維新図画の理論と実際』理論編（Ｐ．67—113「図案に関すること」を含む），昭和14，晩成処，272Ｐ．，27cm

(図)　遠藤教三　『図解　図案総説』，昭和16，綜合美術研究所，230Ｐ．，21cm

(図)　長谷川七郎　『現代産業美術』，昭和16，東和出版社，158Ｐ．，27cm

＊　ドイツ工作連盟，バウハウスからシカゴのニューバウハウス，さらにはアメリカにおける「工業デザイン」（この言葉は，デザイン関係文献ではこの本が初出と思われる）の実情を紹介したユニークな文献。長谷川は，後出の『機械芸術』（昭和18年）でも，「工業デザイン」の紹介を行っている。

(教)　三苫正雄・松田義之　『芸能科図画工作大系』（p．110—144「図案教材と其の指導」を含む），昭和17，図画工作株式会社，456p．，22cm

＊　昭和16年の国民学校令施行にともない，戦時体制のもと，従来の芸術教育は「芸能科」に再編された。デザイン教育にも〈国家観念協調の図案指導〉といった項目が現れ，色彩指導では〈国防と色彩〉（迷彩をあつかう）が登場する。

(図)　小池新二　『汎美計画』，昭和18，アトリエ社，316p．，22cm

(図)　長谷川七郎　『機械芸術』（『アルス文化叢書』32，昭和18，アルス，96p．，19cm

(イ)　劔持　勇　『規格家具』（『建築新書』9），昭和18，相模書房，図版48p．／本文164p．

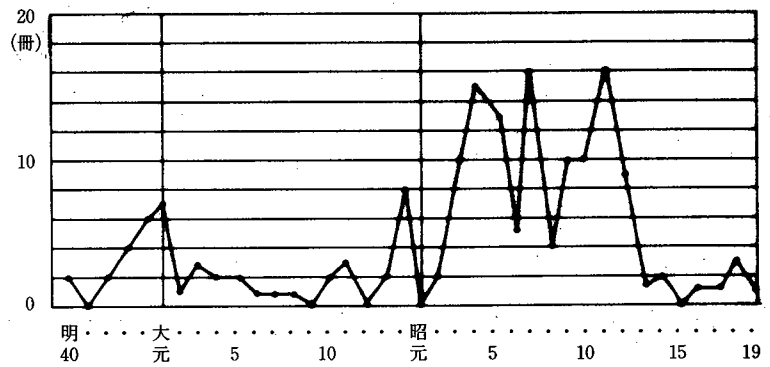
＊　規格家具の条件として，1・機能，2．材料，3．構造，4．形態，5．生産性，があげられている。

(図)　牛山源一郎・太智　浩　『新生活美の方向』，昭和19，目黒書店，254p．／追而書12p．，26cm

＊　内容に〈国家宣伝とポスター〉，〈偽装と迷彩〉が取り上げられ，追而書は〈大東亜戦争と我等の仕事〉と戦時色が濃い。ただ内容の大半は色彩にあてられ，当時敵対国であったアメリカのマンセル表色系も，その調和理論にわたって丁寧に紹介されている。

(図)　『日本画講義』（杉浦非水　「図案講義」，176p．を含む），発行年不明，日本美術学院，「図案講義」176p．「画用透視図法」128p．，22cm

年別出版件数



3．おわりに

はじめに述べたように，日本において一般のデザインへの関心が高まるのは，明治40年以降である。これは，明治40年を過ぎてからデザイン文献の出版が盛んになりはじめていることからも理解されよう。出版は特に大正14年から増加しはじめ，この傾向は昭和12年で終わりを告げる。大正14年頃は，都市への人口集中の結果，大量消費社会が大都市を中心に形成され，商業活動も活発化した。このことは，デザインにより多くの活動の場を提供することにつながり，昭和12年まで続いている活発な出版活動は，これを裏付けている。

昭和12年の蘆溝橋事件に端を発した日中戦争により，日本は急速に軍事国家へと傾斜を深めてゆく。戦時体制が強まるにつれ，消費文化の発展とともにあったデザインも，次第にその活動の場を失っていった。昭和13年以降の，デザイン関係出版物の急速な落ち込みは，同年の雑誌『帝国工芸』の休刊宣言とともに，時局におけるデザインの置かれた立場を端的に示している。

このような出版冊数の変化のみならず，執筆者の経歴，表題の変遷からも，戦前におけるデザイン発展の推移をたどることができよう。このノートが，日本近代デザイン史研究の一助になれば幸いである。識者のご批判とご助言をお

願いしたい。

なお本稿作成にあたっては，筆者所蔵の文献のほか，次の諸機関所蔵の文献を参照した。

国立国会図書館　　大阪府立中の島図書館　　京都府立総合資料館

京都工芸繊維大学付属図書館

資料のいくつかは，兵庫教育大学教授日野永一先生のご提供による。また神戸大学名誉教授の向井正也先生からは，ご尊父向井寛三郎氏の『現代図案教範』全4冊をご恵送いただいた。寛三郎氏の著書は多いが，『現代図案教範』は上記いづれの機関にも所蔵されておらず，大変めずらしく貴重な文献である。記して両氏に，深甚の謝意を表します。

註

1）高橋正人編　『デザイン教育の原理』(『デザイン教育大系』第1巻，昭和42，誠信書房）の第2章　デザイン教育の歴史（熊本高工）には，〈戦前のデザイン教育文献〉として，明治43年以降の69冊の文献があげられている。この中には森田　洪の『装飾図案法』をはじめとするデザイン専門書も含まれているが，多くは図画・手工教育指導書からなる。

なお，日野永一「日本近代デザイン史」(日本産業技術史学会編『技術と文明』2巻2号，1985年3月，日本産業技術史学会，P．63—74）には，日本近代デザイン史についての研究展望と資料紹介のかたちで，戦前・戦後の関連文献の紹介がなされている。日本において数少ないデザイン史研究の指針であり，重要な示唆に富む。

2）「図案法講義」から『おだまき』をへて『一般図按法』にいたる，小室信蔵のデザイン方法論の展開については，『デザイン理論』26（1987，意匠学会）の拙稿「明治初期のデザイン教育」で概説した。その時点では，「図案法講義」は『工芸講義録』第8号（明治39）に収録されたものとして取り扱った。その後，単行本となった『図案法講義』を入手する機会があった。『工芸講義録』中の「図案法講義」のみを抜きだし，単行本としたのであろう。この結果，日本初の単行本としてのデザイン指導書は，同じく小室信蔵の『一般図按法』（明治42）にさきだつ，『図案法講義』（明治40）ということになる。

3） 木槍恕一の著作数は，群をぬいて多い。木槍恕一には自己の経歴をつづった『私の工芸生活抄誌』（昭和17，木槍先生環暦祝賀実行会）があり，それぞれの著作を生んだ背景の一端を知ることができる。

4） 『新興工芸シリーズ』発刊の経緯は，『日本デザイン小史』（1970，ダヴィッド社）中の，西川友武「私の歩んだ道」（123—126ページ）によった。

追記

本稿脱稿後，日野永一先生より以下の貴重な資料の提供をいただき，ご助言を得たので付記する。

雑誌　春名繁春編　『工芸応用　図案雑誌』第20号，明治26年11月，考案雑誌社　（コピー）

『工芸応用　図案雑誌』は，国会図書館には第17号（明治26年８月）から第25号（明治27年５月）まで収蔵されている。その第23号（明治27年３月）の広告に，雑誌刊行の趣旨が述べられているので，少し長くなるが引用してみる。

右ノ雑誌ハ和漢古今ノ名画珍図及器物ノ形様図画ヲ模写シ又古今ヲ参酌工夫シ意匠ヲ凝ラシテ新案ノ図様ヲ精巧美麗ナル木版ヲ以テ顕シ傍ラ工芸美術及製作販売ニ関スル緊要ナル事項其他斯道ニ有益ナル画家工芸家及巧労アル人ノ伝記逸話ヲ通俗平易ナル文字ヲ以テ之ヲ掲ケ工芸美術家ノ参与資料ニ供シテ併セテ東洋美術ヲ発揚セン事ヲ期ス故ニ発兌以来陶器銅器漆器七宝及彫刻ノ美術工芸家愛読ヲ辱フシ（以下略）

ここには，美術工芸の伝統に依拠しつつ，デザインと工芸と美術が未分化の状態にあった明治20年代の日本のデザイン事情がよく示されている。ただ創刊，終刊ともに不明のため，発刊の経緯についてはよく分からないが，明治期におけるデザイン雑誌の先駆的存在であろう。

つぎに単行本として，

（イ）木槍恕一　『近代生活の家と家具と装飾』（『クロモシリーズ　工芸常識講座』），昭和５，三省堂，62Ｐ.，19cm（コピー）

本文では，同シリーズの『電気サイン及看板照明』巻末の広告から，木槍の著書を『近代生活の家具と装飾』としたが，正しい表題は上記の通りであった。このほか，

(イ)　湯川左右　『家具小史』，昭和７，同好会，163Ｐ．，22cm

(図)　荻野光風　『新しき図案の描き方とその資料』，昭和７，冨文館，140Ｐ．，19cm

(図)　坂本春平　『実業図案法』，昭和13，中央工学会，248Ｐ．，22cm

以上を日野先生よりご教授いただいた。追記するとともに，重ねてお礼申しあげます。